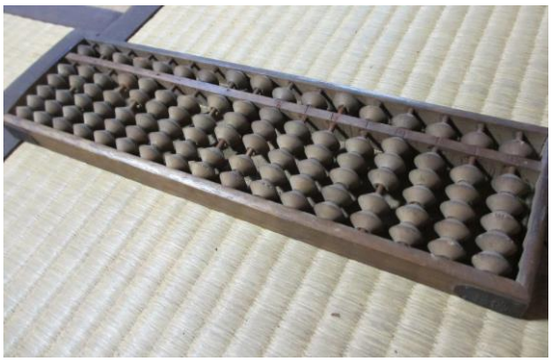
● 寝間の勉強道具 ●

寝間と呼ばれる部屋は文字の通り、寝室・寝床を意味する。また子どもの勉強部屋としても使用された。日の光が入りにくいよう、部屋の中心部に位置することが多い。

■硯

墨を水で磨り卸すために使用する。主に石や瓦等で作られる。筆は、かつては鉛筆の代わりとして勉強などの際に用いられた。



■そろばん

昔の計算機。たまの数が数字を表し、足し算・引き算・かけ算・割り算ができる。はりの上の玉を五玉、下の玉を一玉という。室町時代の後半頃、貿易商の手で、長崎や堺（大阪）などの港町に持ち込まれ、その後広まることとなった。

■硯箱

硯や筆、墨、小刀、尺、暦などを入れておく箱。蒔絵、螺鈿、描金などが施されることもある。日本では平安時代から使用されるようになった。

■教科書

大正・昭和期の教科書の特徴として、読点「、」はあるが、句点「。」はない。上の写真は、算数・国語（書写）・理科・社会・音楽・英語の教科書である。小学校の低学年・中学年・高学年によって分けられている。

■かばん

幕末に輸入され、軍隊で活用されるようになった布製の背のうが始まりと言われている。こうしたかばんが使われ始めたのは、明治時代ともいわれる。